

鎌ヶ谷市政策評価表

政策の名称	31魅力あふれるまちづくりを進めます		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	政策担当マネージャー	都市建設部長
重点政策該当有無	○重点政策	マネージャー氏名	宗川 洋一

I 改革・改善内容(=政策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	広域交流拠点の整備にあたっては、広域幹線道路の整備を含めた道路網の整備と、公共交通の充実、拠点にふさわしい土地活用の推進、賑わいの創出など、総合的な対策を進める必要があります。	③改革・改善内容	今後も、北千葉道路への早期整備に向けた関係機関調整を積極的に進める必要があります。また、検討を中止した東京10号線延伸新線については、その跡地について、賑わいの創出と、交流拠点機能の確保に向けた土地活用の検討を推進していく必要があります。
②①に基づく取り組み結果	広域幹線道路である北千葉道路については、積極的な要望活動などにより、国が調査を開始するに至りました。検討が中止された東京10号線延伸新線の跡地については、その土地活用の検討を開始しました。		

II 政策の目的・概要

①目的	対象	広域交流拠点における交通機能、土地活用、賑わいの創出、公共交通。	意図(対象をどうするのか)	北千葉道路の事業化、駅周辺にふさわしい土地活用、公共交通の充実により、魅力あふれる広域交流拠点化を図ります。
②政策の概要	広域交流拠点では、交通結節点として必要な広域幹線道路としての北千葉道路の早期事業化に向け、関係機関と連携して整備や、賑わいや利便性の確保のための土地活用を誘導します。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新鎌ヶ谷地区をはじめとした交通渋滞解消のため、広域的な幹線道路整備が求められています。また、検討を中止した東京10号線延伸新線は、その跡地について広域交流拠点にふさわしいその土地活用の検討の必要性が生じています。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26～27年度の施策の成果	北千葉道路については、要望活動などにより、国による実現化に向けた調査が開始されました。東京10号線延伸新線の跡地については、その取得について企業庁と協議を開始しました。									
②施策成果指標	指標名称			単位	平成25年度	平成26年度	平成27年度	目標値(27年度)	目標値(32年度)	
	1	新鎌ヶ谷駅乗降客数(1日あたり)		人	96,594	95,703	集計中	92,000	100,000	
	2	新鎌ヶ谷地区事業所数		件	236	234	236	230	270	
	3	新市街地整備事業着手地区数		地区						
	※東京10号線延伸新線促進検討委員会が解散され、施策の活動が中止									
	4	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)		%	52.2	-	-	50.0	55.0	
	5	既成市街地整備事業着手地区数		地区	2	2	2	1	2	
	6	市の景観への満足度(市民意識調査)		%	25.3	-	-	28	33	
	8									
	9									
	10									
11										
③政策の事業費	平成26年度決算	平成27年度決算	市民一人あたり事業費(27年度決算)	平成28年度予算						
事業費(千円)	156,147	73,894		0.7	47,396					

IV 評価・検討

①課題	北千葉道路の早期事業化に向け、今後もさらに国や県と連携を図るとともに、市民の理解を得る必要があります。連立事業に合わせた駅周辺整備を計画的に進める必要があります。また、東京10号線延伸新線の跡地の活用について、更に検討を進める必要があります。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	交流拠点整備に向け、北千葉道路の早期事業着手、東京10号線延伸新線の跡地の取得や土地活用により、広域交流拠点の機能確保をしなければなりません。

V 今後の方向性

①成果の方向性	↑ 向上	②コストの方向性	↑ 増加
③特に重点化する施策	施策1 広域交流拠点の整備		
④上記方向性の説明	交流拠点都市の整備に向けては、広域交通機能の整備と賑わいの創出につながる土地活用の推進が必要となる。		